

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年3月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成26年3月25日(火) 開会：3時30分 閉会：午後6時10分

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	秋山 皓一	委員長務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
教育長	関川 義雄		

### 出席職員

教育長	関川 義雄(再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	諏訪 峰雄
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	山下 隆文
学校給食センター所長	藤崎 吉宣	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	大木 孝男	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
教育総務課課長補佐(書記)	宮崎 由紀男	生涯学習課係長	小川 雅彦
健康子ども部保育課課長補佐	菱木 澄子	健康子ども部保育課係長	吉田 祐子

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

#### 主催事業

○2月16日 第26回青少年交流綱引き大会について

中台体育館で開催。26回目を迎える大会。市内28小学校から85チームが参加。東小学校だけは不参加。主催は青少年相談員連絡協議会で、それぞれ、各小学校で練習を続けてきて

いる。昨年もそうであったが、この大会に向けて多くの小学校でチームを作り、懸命に練習しているせいか、子どもの保護者も含めて大変な数の方々が応援に訪れ、盛大な大会になっている。大会は、優勝が公津小学校、準優勝が美郷台小学校、3位が高岡小学校、4位が新山小学校という順番であった。綱の引き方も本格的で、滑らないシューズをはかせたり、その熱心さは年々エスカレートしているようにも感じられるが、子どもたちは真剣で、勝っても負けても、一生懸命やってきた子達は涙する場面も見られ、感動的な光景であった。

#### ○2月17日～18日 校長目標申告について

各校長の1年を振り返って、当初、立案した目標に対する結果の考察が主となる校長面談であるが、これも各校によって様々である。最も気になったのは具体的な目標設定がなされないと、評価のしようもないこと。また、逆に、具体的な数値を挙げても、それが果たして本当に子どもの成長を評価する指針になり得るのか、あるいは教員の指導力向上に寄与しているのか等々、疑問な点もあった。忙しいスケジュールの中、一人一人と面談しているが、できれば学校に出向き、一人一人の教員の指導を見た上で、学校で校長と面談した方が実情がよくわかるように思った。次年度は違った形での面談はできないか検討したい。

#### ○2月19日 文化財審議委員会について

今年度第3回目の審議委員会だった。今回は昨年10月から本年1月までの埋蔵文化財の取り扱い状況について事務局からの報告と、指定文化財候補の物件（新勝寺薬師堂薬師如来坐像）について説明を行った。また、午後からは各委員さんに新勝寺薬師堂薬師如来坐像の視察に行っていた。私は当日午後から庁内行事のため欠席した。今回の審議委員会の中では、ある委員さんから、指定文化財の新規指定が少ないのではないかと、もっと総合的な調査をすべきではないかと、とご意見をいただいた。

#### ○2月20日 ふれあいコンサートについて

千葉大学リコーダーアンサンブルの演奏だった。当日はチラシの写真とは違って、4名だけの出演だったが、それぞれ異なる種類のリコーダーを用いて心地よい演奏を響かせてくれた。現役大学生の演奏でプロの演奏とは違った趣が感じられ、さわやかな印象を受けた。このコンサートも定着してきた感があるが、客層は、その時市役所を訪れている方以外は、どうしても高齢者が多くなりがちである。これからはもっと若い層にも聴いていただけるような工夫をしていくことも必要かと思う。それと、司会進行も担当課である、生涯学習課が行っているが、コンサートにふさわしい司会進行の仕方も学んで、さらにステップアップしていけるようにしていきたい。どんなことでも、より良いものへという気持ちを持ち続けることが大切だと思う。

#### ○3月 5日 教育委員会会議臨時会について

このことについては、全ての委員さんにご出席頂き、教職員の年度末人事異動についてご審議いただき、ご可決していただいたので、ここでのご報告は省略したい。

○3月11日～18日 成田市立小学校・中学校卒業式について

私は、下総中学校と成田小学校の卒業式に出席した。下総中学校は生徒の合唱と態度が素晴らしく、大変感動的な卒業式であった。いわゆる小中一貫校となれば、中学校単独の卒業式ではなくなると思うので、この日は長い歴史に幕を閉じる卒業式でもあったわけで、感慨ひとしおである。生徒自身もそのことをしっかりと理解しているようで、気持ちがこもっていた。

成田小学校は今回から1年生から3年生までの児童も式の途中から参加して、本当に素晴らしい式となった。とにかく、最初の「市民憲章唱和」から声の出方が違っていた。全員が気持ちを入れ、大きなしっかりとした声で述べるため、館内の緊張が一気に高まり、ただそれだけでも感動するぐらいの状況であった。さすがに伝統の重みと指導の素晴らしさを感じた。他校の卒業式に参加された皆さんの感想もお聞きしたい。

○3月14日 校長人事面接について

今年度末人事異動の内示を行った。ただ、行政職につく予定の職員には具体的な内示ができず、「県、市行政」としか内示できずに、心配をかけたと思うが、県との調整なので仕方なく、最終的に20日付ですべての職の内示を終了した。どの勤務場所においても自らの力を十分発揮して教育の力を見せつけてほしいと思う。

○3月14日 大栄地区小学校統合推進委員会設立会議について

この日、大栄地区に小学校統合推進委員会が立ち上げられた。下総地区に倣い、地区代表の方々、学校職員も加えてスタートを切ることができた。委員長には民生委員で成田市東商工会副会長の佐藤勲氏、副委員長には桜田小学校学校評議員の平野幸一氏と、前林小学校校長の金山京子氏が選出された。推進委員会では、4月中に下総みどり学園を視察し、統合小学校で展開されている小中一貫教育の様子を見、感じていただくことを予定している。まだ、大栄地区では小中一貫教育を実施するか否か決定されたわけではないが、今年度統合小学校の基本構想、基本設計に入るため、早めに方向性を決めていく必要がある。私からは、今回の統合について、アンケートに対し、賛成でも反対でもないという回答をされた、全体の約3割を占める方々にも、統合への積極的な後押しをお願いしていただけるよう、説明していきたい旨、お話しさせていただいた。

○3月19日 下総地区小中連携推進委員会について

開校式前の最後の委員会だった。委員会開始前に新校舎を見て回り、素晴らしい施設に感嘆の声が上がっていた。下総地区の各小学校は施設が老朽化し、また、使い勝手も悪く、決して

恵まれた環境とは言えなかったため、この施設を見て、ただただ驚きの様子だった。委員の皆様にも本日、新校舎をご覧いただけたと思うが、どのような印象をもたれたか。後ほどご意見を伺いたい。最後の委員会の内容については、各部会の報告が中心であったが、5年生からの授業時間を45分にするか、50分にするか、部活動の参加は何年生からにするか等々、細かな部分にまで及んだ。下総みどり学園は、その教育課程の内容にまで入り込み、地域の代表の方々の意見を反映させることになった。ある意味コミュニティースクールのような働きがあったかもしれない。今後の学校運営にもこうした働きを上手く作用させていければ良い学校になっていくのではないかと思う。

#### ○3月19日 2013成田POPラン大会第3回実行委員会について

本年度開催したPOPラン大会の実績、反省、アンケート結果などをまとめて実行委員に示した。また、この結果を基に新年度の大会運営に生かしていくことを確認した。毎回少しずつ運営方法や内容を改善し、良い大会になってきていると思うが、こうした委員会で忌憚のない意見を出していただくことでさらに良いものになっていく。教育委員の皆さんにも大会後にご意見をいただいているが、こうした意見もできるだけ反映させていきたい。

#### ○3月19日 ふれあいルーム修了の会について

全委員さんにご参加していただいているので、取り立ててご報告の必要はないかもしれないが、今回も感動的な場面に出会えて良かった。このルームだけではなく、各学校で、ルームと同じように、一人一人の子どもにしっかり向き合って、愛情を注ぎ続けてほしいと、切に願う。どんな子どもも、自分の思いを聞いてくれる人を求めているはずだ。そんな思いを受け止め、真摯に向き合う態度こそ、教員に求められる最も大切な資質ではないだろうか。

#### ○3月20日 ふれあいコンサートについて

3月は6階大会議室で市内在住、大木理恵さんのハープ演奏があり、200人を超す観客があり、大盛況だったということだが、当日は議会開会中であり、私はこれを聴くことができなかったのも、もし、他の委員さんでこの演奏を聴いた方がいらっしゃったら是非お話を伺いたい。

#### ○3月22日 東小学校閉校式について

閉校式には各委員さんにご参加いただいているのであえて報告の必要はないと思うが、式典には体育館に入れきれないぐらいの卒業生や、学校関係者が参加でき、本当に素晴らしいことである。式典の進行過程でマイクがしっかり使えなかったことは、実行委員会が委託した業者のミスで学校には責任がないが、事前にマイクテストをするのは当たり前のことで、何故あの

ようなことになったか、残念である。

今週末下総地区4校で閉校式を実施する。東小と同様に、あるいはそれ以上に思い出に残る式典になることを願っている。何しろ、130年以上の歴史を刻んできた学校が閉校するのだから。思い出は大切にしていきたい。

## 市議会

○2月21日～3月20日 平成26年3月成田市議会定例会について

別紙をご覧いただきたいが、3月は、新年度予算を決める大変重要な議会である。本会議場での一般質問も含め、予算特別委員会での教育予算に関する主な質疑等についてはインターネット中継、あるいは、ケーブルテレビ等でご覧になった方もいらっしゃると思う。本会議における一般質問では、今回特に、教育委員会制度改革について、私と市長の意見を求められる場面があった。この件については、先日も本委員会の協議会の中でも議論していただいたが、何度か改革を行ってきたとはいえ、戦後長く続いてきた教育委員会制度を根本から変えることにもつながりかねない大きな改革であることから、多くのメディアで取り上げられ、様々な意見交換がなされているところである。政府部内での意見調整も難航しているようで、ことの重要さを物語っているのではないか。こうした改革は何のために行うのか、最終的には子どもにより良い教育を施せるようにするためではないか。私利私欲にとらわれず、党派を超えて、真の目的に沿った公平な判断が期待される。

○3月 6日 教育民生常任委員会について

資料に記された12議案の審議と、所管事務調査として9件の報告を行った。教育委員会としては、7議案の提案、3件の報告をしたが、これらの内容については既に教育委員会会議にて提案、可決されたもの、また既に報告済みのものであるため、ここでは、特にその詳細については省略させていただきたい。審議の結果であるが、議案第10号成田市国民健康保険税条例の一部を改正するについて、は、賛成多数で、他の議案については全会一致で、可決すべきものと決しました。審議の過程において、様々な意見や要望も出されたが、それぞれ真摯に受け止めて課題の解決にあたってまいりたい。なお、詳細については別途質問に応じてお答えしたい。

○3月 7日 総務常任委員会について

教育委員会からも一般会計補正予算を出していたため、本会議に出席した。教育委員会関係では、特段、質問は出されなかったが、畑ヶ田多目的スポーツ広場の今後の整備状況について質問があり、特区構想があり、当初の予定から遅れているが、状況に応じて整備していく旨回答した。この問題については一般質問でも同様のことが聞かれており、教育委員会からの回答では質問者に満足していただける内容にはならなかったと思うが、現状ではやむを得ない状況

である。

#### ○3月10日～18日 予算特別委員会について

大学誘致問題の関係から、特別委員会が延長され、当初予定の13日までには終わらず、18日にも審議が行われた。教育関係予算では、あらかじめ多くの質問が寄せられていたが、各担当課長から適切な回答をし、大きな問題となるような点はなかった。ただ、いくつか要望があげられていたので、これを真摯に受け止め、できる限りの対応をしていきたい。

#### その他

#### ○2月17日 「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会なりた」実行委員会設立総会について

地域伝統芸能活用センター理事長 富取善彦氏、国土交通省関東運輸局長 原喜信氏、他、国土交通省、経済産業省、千葉テレビ放送社長、JR 東日本、京成電鉄、成田地区ホテル業協会、成田山新勝寺、等々関係団体の幹部を招き、地域伝統芸能の全国大会開催に向けて実行委員会の設立総会が行われた。前回大会は石川県金沢市、前々回は福島県郡山市で開催されるなど、どちらも県が主体となって、開催都市がそれに協力するような実行委員会組織だが、本年11月に開催予定の大会は、県というよりはむしろ成田市が主体となって行う大会となった。したがって実行委員も県から知事のみ、国の関係省庁を除けば、全て成田市関係で実行委員を引き受ける形となっている。全国規模の大会を成田市が主体となって行う初めての大会である。大会成功に向けて全職員の協力が欠かせない。

#### ○3月 7日 成田西陵高校卒業式について

私自身としては初めて経験する高校の卒業式であった。式は厳粛に進んでいたが、卒業生答辞の場面では、生徒の思いが、おそらく自分の言葉でまとめたであろう、気持ちのこもった素晴らしい内容であり、感激した。また、式終了後の保護者代表謝辞は、さらに気持ちを揺さぶられる内容で、これを聞いていた多くの生徒が涙を流す場面があり、子どもの成長した姿を感じた次第である。卒業生退場直前、どのクラスも担任の先生に心から感謝の言葉を述べている姿は、まさに感動の瞬間であった。

#### ○3月10日 第2回印旛教育会館評議員会について

印旛教育会館の今年度決算、並びに来年度予算案についての審議を行った。今年度末をもって退職する事務職員が出たとのことで、その退職金支払いのため、補正を組んだことについても承認された。印旛教育会館も建築後の経年劣化によって施設に不具合が生じてきているところもあり、修繕費用がかさんできている。教職員の拠出金によって建築、維持している建物であり、今後も適正な維持管理が必要である。

○3月16日 ナショナルバスケットボールリーグ交流戦について

3月15, 16日の両日、中台体育館で市制60周年記念行事の一つとして、男子プロバスケットボールの交流戦が行われ、私は16日の試合に出席した。千葉ジェッツ対アイシンシーホース三河の試合だったが、さすがにプロの大会はその技術はもちろんのこと、スピード、スピリッツ、そして迫力には驚く。試合結果は千葉ジェッツの敗戦だったが、相手チームの正確なシュートに比べて、ジェッツはシュートミスが多く、残念な結果に終わった。こうした高度なレベルの大会は、バスケットボールを行っている子どもたちにはとても良い刺激になるのではないか。もっと多くの小中学生にも観戦してほしいと思った。

○3月17日 聖徳大学付属成田幼稚園卒園式について

私立幼稚園の卒園式であったが、この幼稚園では、園長先生がその式辞の中で「教育は家庭が基本」ということをいつもおっしゃっていて、今回も、「何かあっても決して学校のせいにして、人のせいにはしてはいけない。しっかりと家庭で育てること」というような趣旨の話をされた。同時に子どもたちには「三つのH」という話をされた。即ち、ヘッド、ハンド、ハートの三つである。人間にしかできないこの三つを大事に伸ばしていくことを示唆されたことが本当に印象的であった。子どもたちも良くしつけられていて、もうすっかり小学生になったような気持ちで頑張っていた。

○3月25日 市制60周年記念事業実行委員本部会について

第4回目の会議であった。既に60周年記念事業は何回か実施されており、その報告と、これからの予定、記念事業の予算等について審議した。また、4回目の会議ということで、特に質問もなく、会議を終えた。通常事業に加えて特別事業がたくさんあるので、計画的に業務運営を実施していきたい。当面は、4月に太鼓祭り、山車祭り等が実施される。

《教育長報告に対する主な質疑等》

委員：文化振興マスタープランの中で、成田市には国指定の文化財が8つあると記されているが、どのようなものが指定されていたか。また、POPラン大会について、参加人数の少ない種目は統合するなどの検討が必要だと思いが、その点について検討されているか。

大矢生涯スポーツ課長：POPランの種目については、市民の部と市外の部に分けている。当初は市民の部は無く、市民の参加を出来るだけ増やすことを目的に市民の部を設けた。

大会にはいろいろな年代の方に参加いただいております、種目が多い方が喜んでいただくと考えている。他のマラソン大会においても、同様の区分で運営されている。成田市独自の部分としては、市民の部を設けている。

委員：例えば、小学校の部では、市民の部と市外の部を統合してはどうか等の意見はないか。

大矢生涯スポーツ課長：3キロの部では、親子で順位に関係なく走りたいという方が多いため、数年前から「オープンの部」を設けるなど、種目を増やした経緯もある。

委員：市内の子どもでも、一般の部に申し込むこともできるか。

大矢生涯スポーツ課長：市内の子どもでも、一般（市外）の部に申し込むことは出来る。申込状況としては、中学生女子の市民の部が19名、小学生男子が337名、小学生女子が191名。小学生については、各スポーツ少年団の方々に参加いただいている。中学校の陸上部の方々には、ボランティアとしてご協力いただいている。今後も、様々なご意見をいただきながら、改善を図ってより良いものにしてまいりたい。

秋山生涯学習課長：国指定の文化財については、建造物が4件で、一つが滑川にあります室町時代に建築された「竜正院仁王門」。次に、房総のむらに移築されている。「旧御子神家住宅」と、同じく房総のむらに移築されている「旧学習院初等科正堂」。4つ目は、5棟が指定されている新勝寺の「光明堂、釈迦堂、三重塔、仁王門、額堂」。彫刻では、新勝寺の本尊である木造不動明王及び二童子像の3体が指定されている。書跡としては、鎌倉時代中期の擬古物語「住吉物語」が成田山仏教図書館にある。考古資料としては、縄文時代前期土器等、南羽鳥中軸1遺跡土坑出土品が指定されている。最後に、史跡としては、龍角寺古墳群・岩屋古墳が指定されている。

議長：小学校・中学校の卒業式に出席した感想をお願いします。

委員：東小学校と西中学校の卒業式に出席した。東小は、音楽室を使用して、保護者や職員、地域の皆さんが子どもたちを囲むように式が行われ。厳粛な中にも、皆さんが心



を一つに寄せ合ったあたたかな卒業式であった。西中では、卒業式前に校長先生より、2年生の様子について報告があった。卒業式は静かに、厳粛に行われた。これまで役員として何度か出席させていただいたことがありました。分離して初めての卒業式でしたが、個人的には以前の西中の勢いのようなものが、あまり感じられない。分離して残った学校にも配慮が必要だと感じた。

委員：滑河小と遠山小の卒業式に出席し。滑河小は伝統のある学校らしく、姿勢もよく、歩き方も見事であった。遠山小では、音楽の先生の指導が良く、素晴らしい合唱でした。ある学校評議員の方からは、遠山小の周りは山里と呼ばれているが、カタクリが手におえないという話をされた。

委員：公津の杜中と高岡小の卒業式に出席した。公津の杜中は、落ち着いて立派な卒業式でした。特に、卒業証書第1号を貰った生徒は貴重な経験だったと思います。校歌も合唱曲のように素晴らしいものでした。高岡小は12名の卒業式でしたが、皆素晴らしい卒業生で、式の途中から泣き出す生徒がたくさんいました。特に驚いたのは、在校生の1年生から5年生の子も皆泣いていて、生徒全員が大泣きをして卒業式を終えたようでした。とても感動しました。

議長：名木小と大栄中の卒業式に出席した。名木小は全校生徒が26名で、卒業生が6名。校長先生は、卒業証書を渡しながら、一人ずつ声をかけていた。卒業式を終え、控室で他の来賓の方と話しをしたが、下総みどり学園に対する期待がとても大きいと感じた。下総みどり学園の運営方法については、これまでに何度か説明をしてきたが、よく浸透していると感じた。順調にスタートさせなければならないという思いで帰った。大栄中は91名の卒業生で、内2名は体調の関係で欠席でしたが、規律のある式でした。生徒も落ち着いており、良い中学校になったと感じた。父兄の協力もあったとは思うが、先生方の素晴らしい指導のたまものだと思った。ふれあいルーム修了の会については、竹尾所長から、「晴れの日のお話、雨の日のお話」というお話もあり、非常に考えさせられる修了の会であった。平日頃、学校は学力の向上の場として捉えがちですが、それぞれに悩みを抱え、学校に行けない児童生徒が数多くいることを、改めて考えさせられる感銘を受けた一日であった。

委員：下総小の新校舎を見学したが、これまでコンクリートの塊だったものが、素晴らしい校舎として出来上がった。部屋の中が木で満たされていて、ぬくもりのある校舎でした。子どもたちも木のぬくもりのように、心温かい子どもとして育ってくれればいいと思った。

委員：光の差し込むとても素晴らしい校舎で、子どもたちも勉強に励めると思う。小中一貫教育については、関心が高くなっており、注目されているので、開校後は、校舎だけではなく、中身も素晴らしい学校にしていきたい。

委員：とても素晴らしい校舎でした。トイレの便器について、掃除のしやすい便器もあるので、今後は検討していきたい。

藤崎学校施設課長：トイレの洋式化を進めていく中で、考慮していきたい。

### 3.議 事

#### (1)議 案

議案第 1 号から議案第 6 号は人事案件であるため成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第 1 号 成田市学校適応専門指導員の任命について

《審議結果》

承 認

議案第 2 号 成田市健康管理医の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第 3 号 成田市英語指導助手の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第4号 成田市社会教育指導員の任命について

《審議結果》

承 認

議案第5号 成田スポーツ推進委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第6号 成田市教育委員会職員の人事異動について

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 遠山小学校への児童ホーム設置及び下総児童ホームの開設について

【藤崎学校施設課長 資料に基づき報告】

(要旨)

児童ホームは、児童が放課後帰宅しても家族の就労又は疾病等により、適切な保護が受けられない児童を、一定の時間保護する施設で、適切な遊びや正しい生活指導等を行うことにより、児童の健全な育成を図っている。この度、4月1日より、新たに遠山児童ホームと下総児童ホ

ームが開設することになった。遠山児童ホームは、東小学校と遠山小学校が統合することに伴い、保護者からの要望に対応するもので、遠山小学校の教室を改造して開設される。また、下総児童ホームは、下総小学校校舎建設と共に整備を行い、体育館棟の1階に開設される。各施設の概要について、まず、遠山児童ホームは、3階建て校舎の1階の普通教室を改造し、出入口を平面図の右下隅に設置している。規模は64㎡、定員は40人で、指導員が3人配置の予定。下総児童ホームは、規模は169.9㎡、定員が50人で指導員が5人配置の予定となっている。なお、下総児童ホームの開設に伴い、これまでの小御門児童ホームは閉鎖される。

《報告第1号に対する主な質疑》

委員：申し込み状況について。

藤崎学校施設課長：遠山が5名、下総が37名。

委員：下総は定員を増やすことができるか。

菱木保育課長補佐：児童ホームは千葉県のガイドラインで子ども一人当たり1.98㎡という規定があり、70名近くまでは可能。定員は決まっているが、曜日により子供が来ない日もあるので、登録数は定員の数を上回ることもある。

委員：遠山小は64㎡で定員40名は多すぎると思うが。

菱木保育課長補佐：他の児童ホームについても1教室40名の定員としている。親の仕事の状況により、平日が休みとなる場合もあるため登録児童の100%の利用とはならない。

委員：県のガイドラインの一人当たり1.65㎡で計算すると定員38名となる。

菱木保育課長補佐：県に対しては、通常、実際に来ている人数で報告している。年度末の実績数で報告し、子どもたちの何%の利用があるかで定員を決めていく。成田市の場合、17～25%の利用率でそこから定員数を決めて、その定員数に沿って指導員を募集している。

教育長：遠山小の利用者5名、指導員3名とあるが、それは常時ではなく交代制になっているのか。

議長：一人当たり1.65㎡はかなり狭いと思う。

菱木保育課長補佐：厚労省の基準に合わせている。実際には全員が入っても狭くなることはない。

委員：下総は定員が102名でもいいわけですか。

菱木保育課長補佐：一人当たりの面積だけでいえばそうなる。定員の出し方は、何人位利用するかを見込んで、定員数としている。予算を組む上で、予算が余らないように実数に近い数を定員としている。

教育長：児童ホームも小さな学校みたいなもので、各児童ホームで子ども同士のトラブルなど様々な問題が起きていると思うが。

菱木保育課長補佐：学校毎に違いはあるが、来年度から25ホームとなり非常勤指導員の方も100名以上となる。学校の先生方と連絡を密にさせていただき、障がいを持った方もいるので、事故等起こらないように対応している。

委員：指導員の方の中で、問題のある方もいたり、指導員同士の関係が良くなって、影響が出ているという話を聞いたことがある。

菱木保育課長補佐：児童ホームの場合、毎年1度面接をしている。また、正職員ではないが、中心となっていていただく方がいる、ミーティング等を行い改善を図っている。また、指導員を個別に呼んで指導することもある。

議 長：各ホームには中心となる指導員を配置しているのか。

菱木保育課長補佐：フルタイム8時間勤務の方とハーフタイム4時間勤務の方がおり、フルタイムの方を児童ホームの規模に合わせて1～2名必ず配置するようにしている。連絡もその方をとおして全員に伝わるように職員の代わりをしていただいている。

報告第2号 文化芸術振興に関する市民意識調査結果及び成田市文化振興マスタープラン骨子(案)について

**【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】**

(要旨)

全体の構成：第1章として、1ページからマスタープラン作成にあたっての趣旨等を位置づけている。第2章として、成田市の文化芸術振興についての動向や現状などを分析したうえで、12ページから、市民意識調査の集計結果の概要を示し、また、課題の整理等を行っている。最後に第3章として、25ページから、プランの理念・基本目標などを示している。

内容説明：「文化芸術振興に関する市民意識調査結果」については、20歳以上の市民2,000人を無作為抽出で、平成25年8月上旬に実施。また、生涯学習の実践者との意識比較を行う考えから、「生涯大学院生」にも同様のアンケートを、平成25年8月下旬に実施している。13ページは「文化芸術の鑑賞について」お尋ねしている。中段で、最近1年間に、文化芸術鑑賞を行った方は鑑賞したものはない方を除くと約6割となっており、市内では「映画」、市外においては「歴史的な建物や遺跡」の鑑賞が多く行われている。14ページは、前の質問に加えて、市内で鑑賞しなかった理由を設問にしているが、「時間がない」や「魅力的なものがない」とする答えの割合が30%を超えている。次に、最近1年間に鑑賞の経験があった方に、「鑑賞のきっかけ」を尋ねしており、「もともと関心があった」との答えが45%となっている。また、「会場が近くだった」や「知り合いがいた」などの理由も挙げられており、身近な場所や人間関係のつながりによって鑑賞されている要因が高いことが分かった。15ページ中段で「市内でもっと鑑賞したい文化芸術」を尋ねたところ、「音楽」が「映画」をわずかの差で押さえて1番多くなっており、今後の事業展開の参考とさせていただきたいと考えている。

次に、「文化芸術に関わる活動」についてお尋ねしている。最近1年間に、文化芸術に活動参

加した方は、なしの方を除きますと約3割となっており、多くの市民の方が参加までには至っていないという現状と分析した。16ページ、活動しなかった理由を設問としてお尋ねしている。回答としては、鑑賞を行わなかった理由と同様に「時間がない」が約4割と多くなっている。また、活動のきっかけも尋ねているが、「会場が近くだった」や「知り合いがいた」、「人に勧められた」など、こちらについても、場所的な近接性と人と人とのつながり、ネットワークが要因となることがわかった。

次に、今後関わりたい文化芸術活動についてお尋ねしているが、「特に関わりたい文化芸術活動はない」が3割強と最も多くなっている。しかしながら、「地域の芸能や祭りへの参加」への回答が2割程度あり、また、別の設問において、市内の伝統芸能の保存・維持活動に携わってみたいと回答された方の中には、若者世代も含まれていましたので、それらを念頭に置き、実際の伝統文化継承の場へとつないでいきたいと考えている。18ページは「伝統芸能・文化財について」お尋ねしている。「伝統芸能関連で重要な施策」及び、「有形文化財維持保存に必要な行政の取り組み」については、共に、「情報の発信」が必要であるとの回答が4割強となっている。また、「鑑賞機会の拡充」の意見も約3割いただいているので、今後、これらのご意見をくみ取ったプランの目標設定を行うことが必要であると考えている。

19ページは、「成田市がめざすべき方向性について」お尋ねしている。「成田市の文化芸術振興のために特に力を入れてほしいこと」については、「子どもが親しむ機会の充実」、「文化施設の充実」、「地域の芸能・祭りの継承保存」への回答が4割を超えているので、これらを踏まえ、事業展開を計画したいと考えている。20ページは、自由記述で回答いただいている内容をテーマごとに取りまとめさせていただいている。

アンケート結果を踏まえた取りまとめについて：

1ページ：文化振興マスタープラン骨子（案）について：マスタープラン策定にあたっての背景と趣旨は、国において、平成13年「文化芸術振興基本法」の制定の後、平成23年の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（いわゆる第3次基本方針）」の閣議決定があり、千葉県においては、平成24年3月に「ちば文化振興計画」が策定されている。本市においても、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進する目標や指針となる「文化振興マスタープラン」の策定が求められていた。文化振興マスタープランについては、「成田市新総合計画」や「総合5か年計画2011」、「第2次成田市生涯学習推進計画」との整合性に留意し、他の関連する個別計画との連携も図ることとしている。

また、マスタープランの期間については、策定後10年間としたが、現行の総合計画の満了

期間が平成27年度までとなっていることから、次期総合計画を策定するにあたり、事業のスクラップ&ビルドが予想される。そういったことから、総合計画との整合性を図るため、必要に応じて見直す予定であることを明示させていただいた。

2ページ：文化芸術の範囲を定義している。「文化芸術振興基本法」に規定された内容となっており、市民意識調査の際にも、この資料は添付させていただいている。

3ページ：文化芸術振興に関する国の動向を記載。

4ページ：千葉県の動向

5ページ：「成田市新総合計画」から「第2次生涯学習推進計画」までの流れを記載

6ページから：「成田市における文化芸術の現状」ということで、背景のくくりの中で、歴史、社会、主に人口動態について記載。

9ページから：文化財、文化施設

10ページ：文化イベント

11ページ：市民の文化活動について記載

21ページ：市民意識調査の結果を受ける形で課題の整理。中段に、参加を促進する「情報づくりの課題」については、3点で整理している。「ア 本市における文化振興の認識づくり」については、市民意識調査結果から、文化芸術鑑賞や活動参加に「関心や興味がない」という声が多くみられ、「この意識調査により文化について気づかされた」というご意見も少なからずあったことから、市民の皆様に興味や関心を持っていただける様、行政が文化振興に関し、効果的に情報発信することが必要であるという考え方で記載している。

「イ 文化芸術に関する「情報の不足感」への対応」については、文化芸術の鑑賞や活動においても、「時間がない」や「関心がない」などの理由に次いで「情報がない」ことが不参加の理由として挙げられている。22ページ上段で、「ウ 「到達する情報」づくり」においても、高齢者は広報から情報取得する事が多く、逆に、若者はインターネットから情報を得るという傾向が見られたので、世代なども考慮に入れ対応することが重要と分析した。いずれにしても、情報発信については、今後、工夫が必要であると考えている。「(2) 活動の「受け皿」づくりの課題」についても、3点で整理させていただいた。「ア 「身近な」「敷居の低い」施設づくり」については、「会場が近く」にあることが、鑑賞や参加のきっかけとなったとの意識調査結果や、利用できる日時の拡大や手続きの簡素化など、使い勝手のよい施設が求められていることから、そのような方向性で取りまとめた。「イ 「市民の主体的活動」の受け皿づくり」については、意識調査結果において、音楽ホール、美術館やギャラリーを望むご意見や、行政としても、場所がなければ、市民の皆様の「活動したい」というお気持ちを受け止めることが



出来ないことから、そういった方向性で記載させていただいた。「ウ 「成田らしさ」「地域らしさ」を支える環境づくり」については、「文化財を保存・展示する施設」や、国際都市として、「空港や参道」で文化に触れられる様な環境づくりも必要とのご意見をいただいているので、施設環境の充実について言及させていただいた。23ページ「(3) 豊かな「活動」づくりの課題」についても、3点で整理させていただいた。「ア 「多様な活動」と「機会均等」の推進」については、利用者層に関する自由記載の中で、高齢者だけではなく、若者や子ども連れ、障がいをお持ちの方や、成田の特性として想定される、外国人の方にも配慮した環境づくりを求めるとのご意見があったので、誰もが参加しやすい環境づくりを整えるべく言及させていただいた。「イ 「子ども・若者」の参加への期待」については、子どもや若者が文化芸術を享受し、また、自ら活動できるようになることは、子育て世代のご意見のみならず、中高年層からも支持をされている。子どもや若者に文化を伝えながら、世代間交流が活性化し、さらに、文化を次代につなげていくことのできる事は重要であると考え、記載させていただいた。「ウ 歴史文化・伝統芸能への着目」については、市民意識調査において「市が推進すべき文化芸術」として、「歴史的な建物や遺跡の保存活用」や「伝統芸能」が上位に来ていることから、本市において展開しなければいけない事業であると考えている。しかしながら、歴史資料の鑑賞や伝統芸能に関し、現物を見ている方や、携わっている方はごく少数であった。このギャップを埋めることが、本市の文化振興における課題であると分析した。24ページ「(4) 文化芸術を振興する「体制」づくりの課題」につきましても、3点で整理させていただいた。市民意識調査の自由記載におきまして、学校との連携はご意見としていただいているが、その点を少し進めまして、「ア 各主体の役割と連携・連携のあり方の明確化」について、文化振興については、行政だけで達成できるものではないことから、行政、市民、文化芸術関係団体、学校、企業などがそれぞれの役割を明確にし、連携・協力していくことが重要と分析させていただいた。「イ 文化芸術を担う人材の育成」では、自分自身が表現者として、文化芸術分野の第一線で活躍していただける方、指導者として、子どもや若者の成長を育てていただける人材など、幅広く、文化芸術活動を担う人材を育成・確保することは重要であると考えている。生涯学習の成果として学んだことを、地域に還元していただくことは、生涯学習推進計画の基本理念でもある。また、多様な分野の人材をネットワーク化し、情報提供できるようになることも、情報発信の強化につながるものと考えている。「ウ 文化芸術からのまちづくりの推進」では、文化芸術を振興することにより、個人の心豊かな生活から、世代間交流、地域のきずなづくり、経済の活性化など、最終的には本市のまちづくりにつながって欲しいと考えている、そのような方向性で記載させていただいた。

25ページは、今までご説明した概念を取りまとめ、新勝寺などの歴史的建造物を擁し、かつ、成田国際空港が所在する自治体であることから、「歴史」や「つなぐ」、「交差する」など、本市からイメージされるキーワードを用いて、「理念」を設定した。

26ページは、成田市の文化芸術振興における課題で申し上げた「情報づくりの課題」、「受け皿づくりの課題」、「活動づくりの課題」、「体制づくりの課題」を解決していくために、裏表の関係となる様、目標としたものである。27ページは、施策の体系を示しているが、「参加を促進する情報づくり」については、文化芸術鑑賞や活動参加に「関心や興味がない」という声や、「市民意識調査が文化について考えるきっかけとなった」との意見から、効果的に情報発信することが必要であるという考え方のもと、(1)文化のまちづくりをすすめる意識づけを高め、又、提供できる情報を増やすことにより、(2)文化芸術関連情報の整備や、(3)魅力的な情報発信・情報交流の推進に資する諸事業を展開する計画である。「活動の受け皿となる環境づくり」については、音楽ホール、美術館やギャラリーを望む意見や、「会場の近接性」が、鑑賞や参加のきっかけとなったとの意識調査結果、更には、利用できる日時の拡大や手続きの簡素化など、使い勝手のよい施設が求められていることなどから、既存活動拠点の充実や新規整備を行う(1)活動拠点の拡充や、多くの方が使いやすい施設を整えるための(2)利用しやすい施設づくりに資する諸事業を展開する計画である。「成田文化の継承と創造」については、文化振興の根本となる文化資源を維持継続すべく(1)文化資源の保全と創造、高齢者やお子様連れの方、障がいをお持ちの方や成田の特性として想定される、外国人の方等に配慮した環境づくりとして(2)市民主体の多様な活動の振興、更には、文化を次代につなげていくことのできる事が必要であるとの考え方のもと、(3)子ども・若者の育成や(4)豊かな文化交流の推進に資する諸事業を展開する計画である。「文化芸術振興の体制づくり」については、表現者としての人材や指導者としての人材など、(1)人材の育成・発掘・活躍の促進や、行政単体では文化振興を達成することは難しいと考え、(2)文化芸術振興体制の充実に資する諸事業を展開する計画である。また、今後のスケジュールでは、年度内に、文化振興マスタープラン策定委員会を開催し、委員の皆様からのご意見を頂く予定である。

更に、次年度については、社会教育委員会や文化財審議委員会、生涯学習推進協議会などの会議に提案し、多方面からのご意見をいただき、プランの精度を高め、順次、議会報告、パブリックコメント等を実施し、策定に向け進んで参りたい。

教育委員の皆様のご意見を参考にさせていただき、マスタープラン策定委員会を開催し、検討を進めていきたいと考えている。

## 《報告第2号に対する主な質疑》

委員：現代においては様々な事件が起き、殺伐とした社会状況にあるが、3ページの国レベルの動向においての部分で、「文化芸術は人々が心豊かな生活を実現する上で不可欠である」と書かれているが、本当にそのとおりだと思う。素晴らしい文言だと思うし、そうした働きを文化芸術は持っていると思う。国民の文化芸術活動は「鑑賞から参加」へ変化してきているということですが、アンケート調査では、活動経験なしが72.4%と活動に参加していない市民が多い結果となっている。鑑賞した文化芸術では、市内では映画が1位、「なし」が35.7%、市外では、歴史的な建物や遺跡が1位で、「なし」が31.4%と約3割の人が参加していないとなっている。4ページの国民の年齢別の積極的自由時間活動の表で、平成18年と平成23年のデータがあり、ここでは、10歳～15歳までは活動時間が長く、これは部活動によるものと推測される。次に19歳～24歳の間では、段々と下がってきている、まだ高い位置にある。大学生など時間に余裕がある人の活動が占めていると思われる。企業戦士の間は低く、定年後はまた上がってきている。さらに年齢が上がり体力が落ちてくると下がってきている。この平成18年と平成23年の比較ではそれ程変わっていませんが、こうしたデータが先進国の欧米の国でどうなっているのか解っていれば教えていただきたい。

秋山生涯学習課長：そこまでのデータはない。

委員：外国と比較することもいいと思う。21ページの成田市の文化芸術の振興における課題のところ、20歳以上の市民の8割が「文化芸術は重要」と考えているとあるように、これだけ高い関心を持っていながら、参加者が少ないし、鑑賞する機会が少ないという結果になっている。ただ、文化にもっと触れる機会をつくってほしいという意見も多い。今年の初めに、もりんぴあこうづで落語が木戸銭500円で開催された。今後、成田駅前にも小ホールが出来るとし、大栄にも小ホールがあるので、そうした施設を利用して音楽会を定期的で開催して、日常、芸術に触れる場面を作ってあげるべきだと思う。市内在住で音楽や落語などに取り組んでいる人もたくさんいるので、日常的に文化芸術に触れる機会を提供すべきだと思う。また、「時間がない」という人が多いが、実際のところは興味がないということだと思う。そうした人が興味を持

てるような機会を増やしてあげることが必要だ。地域の祭りに参加したいと考えている人も多くいる。広報に成田市全地区の祭りをカレンダーにして掲載し、一般の参加が可能なものは連絡先を入れるなどして、情報提供するなど工夫をすることで、機会を作ることできると思う。

議長：平成26年度当初予算の中で、文化振興マスタープラン策定の予算要求をしており、2年間をかけて策定するということだが、アンケート調査を通して課題が明確になっている。本市に相応しいマスタープランを策定すると謳っているので、マスタープランが活かされ、本市の文化芸術の振興に大いに寄与されるものを策定していただきたいと思う。

委員：アンケートでの「興味・関心がない」という結果について、音楽に関しては、小さな頃から音楽を聴いていないことも影響していると思う。子どもの周りに常に音楽がある環境を作ることも大事なことだと思う。学校でもコンサートが行われてはいるが、子どもの成長する過程の中で、常に音楽があるような環境を作ることで関心・興味が持てるような子どもに成長していくものと思う。成田の子どもたちの根っこには音楽があるという状況を作っていけば、大人になった時も興味・関心が持てるようになると思う。

委員：イベントを開催するのであれば、空港よりも成田国際文化会館やもりんぴあこうづのような利便性の高い施設を活用したほうが良いと思う。イベントを開催する場所は大事だと思う。また、学校のコンサートも回数を増やしたり、遠足も美術館を行先にするなど遊びでない遠足も考えていただけたらと思う。

### 報告第3号 学校体育施設開放事業について

#### 【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

市内の小中学校の体育館、校庭等を市民の身近なスポーツ活動の施設として開放している。本年4月に開校する、下総小学校の学校体育施設開放については、開校式・始業式・入学式等が予定されており、体育館が利用できなくなることが想定される。そのため、4月14日より

運用を開始する。

なお、下総中学校については、通常通り開放を行う。

次に、学校体育施設開放の申請手続きについては、平成25年度から電子メールによる申請手続きを開始したが、現在の申請状況を報告する。

平成26年2月現在、利用申請1,453件に対し電子メール件数、468件、全体の3割となっている。

今後、電子メール申請が出来る旨の周知を行ってまいりたい。

#### 報告第4号 寄付の申し出について

##### 【伊藤教育総務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

千葉ガス株式会社取締役社長 角田憲司様から新1年生用に巾着袋の寄贈があった。市内小学生、新1年生に対し、1500個いただいた。広報なりた4月15日号に本件の寄贈について掲載する予定。千葉ガス(株)におかれては、これまでガスコンロも寄贈いただいております。総額で800万円程の金額に相当する寄附をしていただいている。今年が最後になるかもしれないというお話もあり、今後、表彰についても考えてまいりたい。

#### (3)その他

- ・教育委員会会議の議題種類の追加について

##### 【伊藤教育総務課長 資料に基づき説明】

(要旨)

教育委員会としての意思形成過程を明らかにするため、教育行政に関する重要な事案または将来的に教育委員会において議決を要する事案等で、教育委員の協議を要するものについて、これらを「協議事項」として附議したいと考えている。例えば、マスタープランの策定などについては「協議事項」になると考えている。教育委員が従来の施策決定に加え、教育施策の形成に早期から参画し、各教育委員及び事務局と論議を重ねることにより、多様な教育課題により迅速かつ適切に対応することが期待でき、平成26年4月から適用したいと考えている。

#### 4.委員長閉会宣言